



2008. 7月号 No.62
 東北森林管理局 藤里森林センター
 〒018-3201
 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
 Tel 0185-79-1003
 Fax 79-1005
 eメールアドレス fujisatofc@shirakami.or.jp
 HP url: <http://www.shirakami.or.jp/~fujisatofc/>

白神山地世界遺産地域巡視員会議の開催

白神山地世界遺産地域巡視員会議（秋田県側）が、6月3日（火）八峰町の峰栄館で開催され、連絡会議の関係機関をはじめ巡視員、関係市町の担当者ら40名が出席しました。会議では、はじめに連絡会議を代表して石井計画部長から、「白神山地の世界遺産としての管理や保護、遺産地域以外の森林の整備や自然再生が大きな課題だと思います。このようなことに取り組むためにも、白神山地を間近に見ていらっしゃる皆様のご意見を伺い、関係行政機関も一体になって白神山地を次の世代へ伝えられるよう取り組んでいきたい」との挨拶の後、巡視員を代表して能代市の佐藤恒雄氏に、新しい巡視員証が交付されました。



続いて、関係行政機関から今年度の事業計画が説明され、環境省からは管理事業を請負契約により実施することやブナ林モニタリングの取りまとめを実施することが、また、秋田県からは白神周辺地域での事業概要やしらかみeネットワーク構築事業の事業計画などについて説明がありました。東北森林管理局からはグリーン・サポート・スタッフによる巡視活動の状況やボランティア巡視員の巡視活動の事前届け出、また、秋田・青森両県の巡視員の交流などについての説明を行いました。

なお、夏の合同パトロールについては、ニツ森と小岳の2コースに分かれて実施する計画案が提示されました。意見交換では、田苗代湿原の若いブナの葉が枯れているとの報告や合同パトロールで巡視員が源流部の状況を合同パトロール等で確認してはどうかとの提案がありました。

今回の会議では、交代等により新たに藤里町の3名と能代市の1名に巡視員が委嘱され、秋田側の巡視員は35人となりました。

白神山地世界遺産地域の核心地域への入山について

- 白神山地世界遺産地域の核心地域への入山に係る手続きは以下のとおりです。
 - 登山目的以外の入山については、学術研究等公共的な行為目的の場合は「入林許可申請書」を提出し、適当と認められた場合は入林許可証を交付します。
 - 登山目的の入山については、秋田県側は(1)の場合を除き、入山を遠慮いただいております。なお、青森県側は27区間の「指定ルート」を利用する場合に限り、関係機関への届出により入山することができます。

2 遺産地域の核心地域への入山状況について

平成17年から平成19年までの核心地域への入山状況については、下表のとおりです。

【単位：件】

年度別	秋 田 県 側			青 森 県 側			計		
	許可 (調査等)	届出 (登山)	計	許可 (調査等)	届出 (登山)	計	許可 (調査等)	届出 (登山)	計
平成17年	10		10	20	69	89	30	69	99
平成18年	4		4	9	65	74	13	65	78
平成19年	7		7	9	83	92	16	83	99

第一回森林ふれあい推進事業（ニツ森）

5月31日（土）今年度第一回森林ふれあい事業「新緑の白神山地でのニツ森登山と温泉浴」を秋田市、横手市、能代市など県内から21名の方々の参加を得て開催しました。

ぶなっこランドで開会式を行い、新屋敷所長の挨拶、職員の紹介を終えた後、登山道入口に移動し、3班に分かれてニツ森山頂を目指しました。今年の白神山地は雪消えが早く、去年のように残雪の登山とはなりませんでしたが、登山道脇では、ツバメオモト、コミヤマカタバミなどが真っ盛りで、可憐な高山植物が楽しめました。

また、ミネザクラの花がわずかに咲き残り、参加者は「念願のミネザクラがようやく見れた」と感激していました。山頂到着頃から降り出した雨が強くなってきたので、昼食は予定を変更し、下山して登山道入口でとることになりました。

昼食後、真瀬溪流の三十釜の散策とぶなっこランドを見学し、最後はハタハタ館での温泉浴と、雄大なブナ林を中心に白神の魅力を満喫できた一日となりました。



第二回森林ふれあい推進事業（藤里駒ヶ岳）

6月29日（日）第二回森林ふれあい推進事業となる「新緑の白神山地での藤里駒ヶ岳登山」が遠く千葉県から参加者も含め合計21名で行われました。

途中の田苗代湿原では、ニッコウキスゲやワタスゲ、ガクウラジロヨウラク等の可憐な花々が参加者を出迎えてくれました。歩道では皆、歩道上にあるゴツゴツした大きな岩や、ぬかるみに悪戦苦

闘しながらもゴゼンタチバナやシャクナゲに癒されながら無事山頂に到着しました。

山頂で昼食をとり、白神岳・岩木山をはじめ各山々を眺望し、山頂にある標柱の前で記念撮影をし下山しました。

今回の登山では、朝から心配された雨が降ることなく、1人もリタイアすることなく無事に終了することが出来ました。

参加者からは、「色々な花々を知ることが出来て良かった」「登山はきつかったが楽しかった」という感想をいただきました。



藤里小学校の森林教室開催

藤里町教育委員会からの依頼を受け、6月12日に当センターの研修棟において藤里小学校5年生の児童33名を対象に森林教室を開催しました。



【質問攻めで汗だくになる所長】

「白神山地にはどんな珍しい植物がありますか?」「核心地域に入るにはどうしたらよいのですか?」など積極的な質問がだされ、とても有意義な森林教室になりました。

今回参加された児童の皆さんには、これからも白神山地をはじめ、もっともっと自然に興味を持ってもらいたいと思います。

所長の挨拶の後、「世界遺産の概要について」「森林の働き」「白神山地の動植物」「白神山地の保全管理」について授業を行いました。少し難しい内容もありましたが、児童達は、細かくメモを取るなどして熱心に授業に取り組んでいました。

質問の時間では「白神山地にある食べられる木の実やキノコの種類は?」「日本にあるブナの木分布状況は?」「白神山地にはどんな珍しい植物がありますか?」「核心地域に入るにはどうしたらよいのですか?」など積極的な質問がだされ、とても有意義な森林教室になりました。



【積極的に質問する児童】

センターホームページが優秀賞を受賞



(社)全国林業改良普及協会が主催する第42回林業関係広報コンクールのホームページ部門において、当センターのホームページが優秀賞を受賞しました。

このコンクールは林業関係組織の広報活動の向上を目的として都道府県・市町村・森林組合などの機関誌やホームページを対象に行われ、第42回コンクールには全国から広報誌部門に29点、ホームページ部門に20点の応募がありました。

5月28日に東京都港区赤坂の三会堂ビルで開かれた通常総会の席上にて表彰式が行われ、機関誌部門は東北森林管理局「みどりの東北」、ホームページ部門は藤里森林センターの「ホームページ」が、それぞれ『優秀賞』を受賞しました。手づくりならではの親近感や息づかいが伝わるとの評価を頂きましたが、「サイトの使いやすさ」、「文章の硬さ」を改善するよう指摘も受けております。

今後はそれを参考にして、より良いホームページにするため努力をしていきたいと思っております。

ハクサンチドリ

Orchis aristata Fisch.ex Lindl.

ラン科 ハクサンチドリ属

環境省：該当なし

◆**特徴と生活** 高山の草地に生える多年草で、根は掌状に肥厚するものがある。茎は高さ10～40cm。葉は3～6枚つけ、長さ5～15cm、幅1～3cm、倒披針形で基部は鞘となって茎を抱く。花期は6～8月で、紅紫色の花を茎の先端に多数が総状につける。苞は披針形。萼片は卵状披針形で長さ7～13mm。側花弁は狭卵形で萼片よりすこし短い。唇弁はくさび形で萼片よりわずかに長く、内面に細かい突起があり、先端は3裂し、鋭くとがる。和名の白山千鳥は、石川県白山に多く自生し、花の形が千鳥の飛ぶ姿に似ていることからつけられた名である。



◆**国内の分布** 北海道、本州中部以北の高山に分布する。白神山地周辺では、比較的高い山の峰筋などで見ることができる。写真は林野巡視の際に見つけて撮影したものである。

「森林の市」白神山地の写真パネルを展示

5月10日（土）に、毎年恒例の「森林の市」が「美しい森林づくり推進国民運動」の推進行事及び第59回全国植樹祭の協賛行事として、今年は秋田市のアゴラ広場及び秋田駅前仲小路に場所を移して開催されました。

会場では森林管理署、森林組合、木材関係団体などが出店し、山菜、山野草、テーブル、まな板などの木工品の展示販売などが行われました。



人々が途切れることのない仲小路には「岳岱自然観察教育林の



巨大パネル」を展示し、その両側で当センターと津軽白神森林環境保全ふれあいセンターが、ブナ林の風景や動植物、そして自然観察会の様子等のパネルを展示しました。当日は絶好のイベント日和で来場者も多く、用意した白神関連の各種パンフレットを手に、多くの方が見入っていました。

今回の白神山地のパネル展示は、白神山地のPRを行うのに絶好の機会となりました。

編集後記

平成20年度も3ヶ月が経過。森林センターの業務も本格化し、毎日が悪戦苦闘の連続です。その中でも特に苦戦しているのが、小・中学生を相手にする森林教室です。当センターでは、森林のことについて理解を深めてもらうために、見たり、聞いたり、触れたり、時には食べたりと、五感を使うなど工夫を凝らした授業をしています。そして、最後に質問を受けるわけですが、子どもたちの目の輝きと矢継ぎ早の質問に額から脂汗。苦戦を強いられたいと思いますが、分かりやすい森林教室にするため、これからも汗をかき続けたいと思います。(S)